

「令和5年度乳児保育研修会」報告書

【期日】令和5年10月16日（月）

【会場】佐賀県社会福祉会館 2階 大研修室

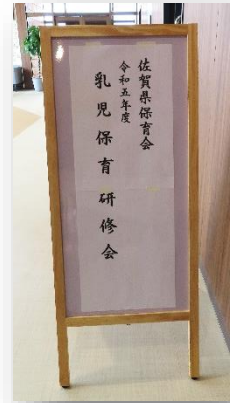
【主催】佐賀県保育会

【参加者数】112名（参集 49名 オンライン 65名）

【内容】

研修Ⅰ 12:30～16:30

西村真実氏（武庫川女子大学 教育学部 准教授）



研修Ⅰ『乳児保育で大切にすること』西村真実氏

西村氏は、乳児保育で最も大切といえる、保育者との愛着関係を形成するために数ある保育の手法のなかで「育児担当制」に焦点をおかれている。

「育児担当制」とは・・・

（現在はまだはっきりとした定義がないため、園独自であったり先生によって考え方も違ったりしているのが現状）

子どもの「流れる日課」に則り、特定の保育士が特定の子の生活行為を継続的に援助する保育の手法

育児担当制を、取り入れることによって、保育者との愛着関係を築きやすい。



「愛着」とは・・・

- ・安全、安心、保護への欲求に基づいた絆。
人が未熟で脆弱である乳幼児期や児童期に最も重要であると言われる。
- ・何らかの危機に際し、恐れや不安などの**ネガティブな感情**を経験した時、身体的、心理的に「**特定の人に**」
(固有名詞をもつ唯一無二の存在) くっつきたいと願う願望と行動の傾向。
- ・愛着(特定の人との情緒的な絆)が可能にするものは、
1人でいられる力、独力で何かを成し遂げようとする力、自律性の発達



しっかりと愛着ができていれば、対象者がいなくても安心して1人で過ごせるようになる。

安心できれば、周り(環境)に目を向け、働きかけることができるようになる。

周囲への興味・関心が出てくると、探索・行動にうつせる。

探索行動は、愛着を求める行動と逆の関係にあり、乳児の探索行動は、母親がそばにいるときには増加し、母親がいなくなると減少する。そのため、2歳ぎらいまでは、愛着対象者が視界の中にあることが大切である。

**愛着によって、子どもが安心して自分から環境に働きかける力を養い
直接的経験を保証する。**

<保育における愛着関係>

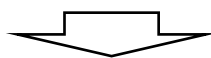
- ・愛着関係は、親子関係に限定されるものではない。

主要なアタッチメント対象となり得る条件

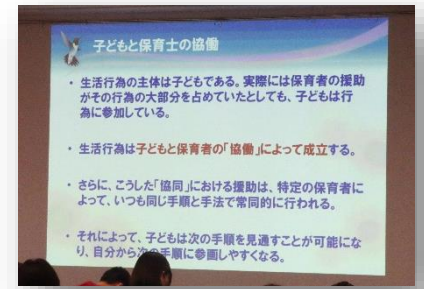
- ・子どもに対して、身体的情緒的なケアを十分に与えること。
- ・子どもの生活において連続し、一貫した存在であること。

つまり、いつも同じ人が、同じようにかかわることで愛着対象者になりえる。

- ・「育児担当制」での生活援助は、**特定の保育者が特定の子どもに継続的な援助**を行う。
- ・食事、排泄、着脱等は、**毎日頻回に行われる**ものであり、それを特定の保育者が行うことで、**保育者は個別の子どもの発達の状態像を具体的に把握し、子どもの状態に応じて必要な援助を見極める。**
- ・生活場面に必要な行為の中で、子どもが自分でできる部分は子どもに任せ、自分でできない部分を手助けし、子どもは徐々に自分でできるようになっていくプロセスを進む。



子どもと保育士の協働



- ・生活行為の主体は子どもである。
実際には、保育者の援助がその行為の大部分を占めていたとしても、子どもは行為に参加している。
- ・生活行為は、**子どもと保育者の「協働」によって成立する**。
※子どもが安心して見通しを持ってできるような言葉かけを必ずする。
- ・さらに、こうした「協働」における援助は、特定の保育者によって、いつも同じ手順と手法で常同的に行われる。
- ・それによって、子どもは次の手順を見通すことが可能になり、自分から次の手順に参加しやすくなる。
- ・一連の行為の主体は子ども自身である。
- ・「担当制」による生活援助では、まず子どもを行為の主体として捉える。
- ・どんなに幼くても子ども自身が「**力を有する存在**」として尊重される。

⇒基本的な生活は、反復学習によって獲得する。

食事、着脱、排泄、衛生等の行動は「同じ手順で繰り返す」ことが重要。

- ・同じ手順で繰り返されることで、子どもは見通しを持つことが可能。
- ・子どもが「自分でやろう」としやすくなる。



- ・子どもは生活行為の一連の行為の中で何度も大人を見る。この際、特定の保育士が毎回かかっていると、子どもからの発信をキャッチして、レスポンスやすく、また、子どもも発信しやすくなる。

⇒**応答的保育**ができる。

- ・育児担当制の実施には、環境構成が不可欠であり、一人ひとりの子どもの時間がスムーズに流れることを保障する必要がある。※育児担当制を実施している園の環境構成の写真あり。

<感想>

今回「乳児保育で大切にすること」をテーマに「育児担当制」という手法について、西村先生の熱いご講演を受けることができ、大変勉強になりました。今後は、「育児担当制」にも目を向け、園の職員と共有し子どもたちが保育者と愛着関係をしっかりと築くことのできる環境構成をしていきたいと思います。

(文責：久間子守保育園 籠里沙)